

2021年

原発はもういらない! 再生可能エネルギーを!

5.28 (金)

♪首都圏のみなさん、函館市民に代わってぜひ傍聴に来て下さ〜い♪

# 函館市大間原発建設差し止め裁判

## 第24回口頭弁論

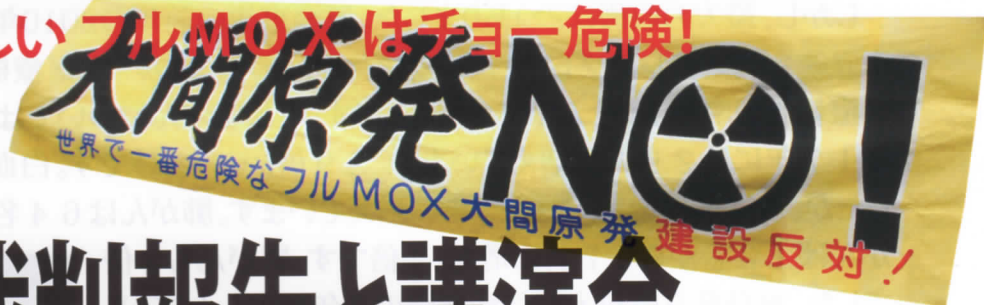
東京地裁103号法廷

(最寄駅: 地下鉄霞ヶ関駅A1出口)

5月28日(金) 15:00~

地裁前で14時半までに傍聴整理券の配布が行われます。(新型コロナ禍の関係で、傍聴席の数が制限される可能性があります。多数の場合は抽選。)

核分裂の制御が難しいフルMOXはチョー危険!



# 大間原発裁判報告と講演会

会場: 参議院議員会館

日時: 5月28日(金) 16:00~

《プログラム》 (16:00~18:00)

1. 講演 「あれから10年 東電被曝・いま福島で何が起きているか」  
小笠原和彦 (ライター)
2. 弁護団報告 「新たな裁判体へこれまでの訴訟の内容を理解いただくためのプレゼン」

### 3. 現地報告



主催: 大間原発反対関東の会 事務局(イロハネット): 090-6517-3341 (山本)

賛同: 経産省前テントひろば 連絡先: 070-6473-1947



※会場は蜜を避けるため100人とします。15時から入館できますので、会館内で待機するスタッフから入館証を受け取ってお入り下さい。

# きっかけは、著者が住む町に 小児甲状腺がん患者が3人出たことだった

これは出版社がつくった宣伝文ですが、昨年7月、わたしは風媒社から『東電被曝二〇二〇・黙示録』というタイトルで本を出しました。わたしが住む地域は東葛地方と呼ばれ、松戸市、流山市、柏市、野田市、我孫子市、鎌ヶ谷市の6市ですが、そこが東京電力福島第一発電所の事故によりホットスポットになり、100万人に2人か3人といわれている小児甲状腺がんの患者が3人出たのです。しかも甲状腺のエコー検査は1800人ぐらいしか行われていませんでした。

最初に取材したのは松戸市ですが、松戸市でも原発の事故後、子どもは鼻血を出し、大人はがんで亡くなっていました。被曝を恐れて避難した人もいたのです。放射線量が高く、チェルノブイリでは避難の権利や検診が受けられる地域に松戸市はなったのです。しかし、原発の事故から10年がたち、すっかりそのことは忘れられました。

そのあと福島県を取材しました。福島県でも原発と思われる病気で人はどんどん死んでいました。奇形児が生まれ、闇に葬られている、という証言も得られました。甲状腺の手術を受けた人も取材しました。郡山市のある高校では教師が1人と生徒が3人、そして卒業生が1人、合計5人が甲状腺の手術を受けていたのです。

被曝の影響は自然界にも現れ、それも取材することができました。

しかし、最大の収穫は2つありました。原発事故の前年の2010年から2017年までの南相馬市立総合病院のレセプト(患者が受けた保険診療について、医療機関が保険組合に請求する医療報酬の明細書)を入手できたことです。甲状腺がんについては、事故前は1人でしたが、2017年には29人に増えています。29倍というわけです。白血病は原発の事故前5名でしたが、54名に増え、10.8倍に増えています。肺がんは64名から269名に増え、肝臓がんは12名から47名に増え、4倍です。胃がんも2倍でした。福島県立医科大学付属病院の3年間のレセプトも同じです。国と東電は、健康被害はない、といっていますが、とんでもないことです。

もう一つの収穫は、男の子が生まれにくくなっていたことです。わたしは飯館村の役場に行き、データを入手しました。元来、女の子よりも男の子が多く生まれてくる、といわれていますが、原発の事故があった2011年から2018年の間で生まれてくるはずの43名が生まれてこなかったのです。つまり、死んでいたのです。

講演会ではこんなお話をしたい、と思っています。

講師：小笠原和彦氏プロフィール

1945年生まれ。中央大学法学部卒業。野田市役所勤務。雑誌『市民』の編集を経て、主に工場労働者としてすごす。現在、警備員。著作に『貧しさの文化』『霊園はワンダーランド』『出口のない家』『帰ってきたかい人21面相』『刑務官佐伯茂男の苦悩』など。

